

に ほ ん ぶ ら じ る ものがたり

日本とブラジルをつなぐ物語



1925年7月23日、13歳の少年が日本に「さようなら」をしました。船がゆっくり港を

離れました。少年は小さくなっていく日本をずっと見ていました。今までの思い出や、出会った

人たち、いつも見ていた景色が、少しずつ遠く なくなっていました。

それから 100年後（2025年8月2日）、同じ港にひ孫である私が立っています。私は、自分

のルーツを知るために、この場所へ来ました。

ごあいさつ

みなさん、こんにちは。三重県庁で働いているハシモト マリナです。

今月の「マルチ三重」では、私の家族とも関係がある「日系移民」について、お話しします。

最初に出てきた 13歳の少年は、私の曾祖父（ひいおじいさん）です。

去年の夏、私は曾祖父がブラジルへ出発した 港 へ行きました。そして、移民者の名前が
書いてある名簿の中に、曾祖父の名前を見つけました。

曾祖父は、自分で「ブラジルへ行きたい」と決めたわけではありません。家族が決めて、兄と
一緒にブラジルへ行くことになりました。でも、その時の決断が、100年後の今の私に
つながっています。

今回は、私の家族の話を通して、日本とブラジルをつなぐ移民の歴史を紹介します。

にほんいみん れきし

日本移民の歴史

ねん ぶらじる さんとすみなど
1908年、ブラジルのサントス港に、
にほん から 来た 最初の 移民船
「かざとまる」が着きました。船には781
にん にほんじん の
人の日本人が乗っていました。

ぶらじる こーひーのうえん
そのころ、ブラジルではコーヒー農園
はたらひと たり ませんでした。一方、
にほん じんこう ふ た もの しごと
日本では人口が増え、食べ物や仕事
が足りなくなっていました。

おほ ひと かぞく
そのため、多くの人々が「家族をもっと
しあわ せにしたい」「もっと良い生活をし
たい」と考えて、ブラジルへ行くことを
決めました。

ぶらじる せいかつ
しかし、ブラジルでの生活は、とても
たいへん でした。仕事はとても厳しく、
た もの にほん ちが
食べ物も日本と違いました。また、
ことば つう きゅうりょう すく
言葉も通じず、給料も少なかった
ため、多くの人々が苦しい生活を
しました。

わたし そ ぼ はなし た もの か
私の祖母の話では、食べ物を買う
お金（かね）があまりなかったので、家族で
やさい だいず そだ せいかつ
野菜や大豆を育てて生活していた
そうです。そして、その大豆を使って、
しょうゆ み そ じぶん つく
醤油や味噌も自分たちで作って
いました。



努力の末に築いた生活

あつ なか おお にっけいじゅうしゃ あさはや
暑い中、多くの日系移住者は、朝早くから
よるおそ のうえん はたら
夜遅くまで農園で働きました。

けつ か すこ のうえん はな おお まち
その結果、少しずつ農園を離れて大きな町
す せいかつ あんてい
に住み、生活を安定させることができたよ
うになった人が増えました。

わたし そうそふ ぶらじる そだ けっこん
私の曾祖父もブラジルで育ち、結婚したあ
かん ぴーなすし みせ はじ
と、カンピーナス市で店を始めました。

かぞく きょうりよく あさはや よるおそ
家族みんなで協力して、朝早くから夜遅く
ばん やさい か し さけ う
まで、パンや野菜、お菓子、お酒などを売って
いました。

みせ ねんいじょう いま そ ぼ
その店は、50年以上たった今でも、祖母が
まいにちひら わたし ちい
毎日開いています。私も小さいころ、よく
みせ てつだ
店を手伝っていました。いとこたちと遊んだ
り、お菓子をもらったりした思い出があります。

にっけいじん たいへん せいかつ なか
日系人たちは、大変な生活の中でも、
こ きょういく たいせつ
子どもの教育をととても大切にしてきました。

どりよく いま おお にっけいじん
その努力のおかげで、今では多くの日系人
せいじ けいざい いりよう
が、政治、経済、医療など、いろいろな分野
かつやく
で活躍しています。

ぶらじる しゃかい はってん おお やくだ
そして、ブラジル社会の発展に大きく役立っ
ています。



ブラジルにある日系文化

こ ぶらじる い そうそふ
子どものころにブラジルへ行った曾祖父は、ほか
おお につけい いじゅうしゃ おな にほん
の多くの日系移住者と同じように、日本の
ぶんか たいせつ
文化をととても大切にしていました。

はしもとけ だいどころ しょうゆ
橋本家の台所には、いつも醤油がありました。
ぶらじる りょうり いっしょ つけもの かれー
そして、ブラジル料理と一緒に、漬物やカレー、
み そしる た
おにぎり、お味噌汁などを食べていました。

みせ らじお えんか なが
店では、いつもラジオから演歌が流れていまし
はな ことば ぼるとがるご にほんご ま
た。話す言葉も、ポルトガル語に日本語が混ざっ
とくべつ はな かた
た、特別な話し方でした。

わたし かぞく ぶらじる
これは、私の家族だけではありません。ブラジル
す につけいじん きょうつう ぶんか
に住むたくさんの方系人に共通する文化で
す。

ぶらじる やく まんにん につけいじん
ブラジルには、約200万人の日系人がいると
い ぶらじる す おお
言われています。ブラジルに住んでいても、多くの
ひと ところ なか にほん たいせつ
人が心の中で日本を大切にしていました。
ぶらじる ぶんか まな にほん
そして、ブラジルの文化を学びながら、日本の
ぶんか こ まご つた
文化も子どもや孫へ伝えていきました。

いま ぶらじる にほんぶんか ふか
そのため、今のブラジルには、日本文化が深く
ひろ ちいき にほんぶんか
広がっています。いろいろな地域の日本文化
きょうかい たいこ そーらんぶし でんとうぶんか
協会では、太鼓やソーラン節などの伝統文化
まも
を守っています。

さんばうろ まいとしひら にほんまつ
また、サンパウロで毎年開かれる「日本祭り」に
3にちかん やく まんにん き にほんしょく
は、3日間で約20万人が来ます。日本食も
ぶらじる にんき にほんしょく
ブラジルでとても人気があります。日本食
れすとりん
レストランもたくさんあります。

にほん とお はな ばしょ ひとびと
このように、日本から遠く離れた場所でも、人々
おも にほん ぶんか いま たいせつ
の思いによって、日本の文化は今も大切に
う つ て
受け継がれています。

ぶんか にほん
そして、その文化は、ただ「日本の
ぶんか
文化」というだけではありません。
ぶらじる なか そだ へんか
ブラジルの中で育ち、変化しながら
つく たいせつ ぶんか
作られてきた、とても大切な文化で
す。

わたし につけいぶんか かぞく
私にとって、この日系文化は家族の
れきし じぶん
歴史です。そして、自分がどこから
き おし たいせつ
来たのかを 教えてくれる、大切な
ルーツでもあります

さいご

最後に

にほん ぶらじる いみん れきし きぼう
日本からブラジルへの移民の歴史は、希望
ゆうき ものがたり
と勇気の物語です。

わたし につけいこみゆに てい たいせつ
私は、日系コミュニティから大切なことを
まな くに ぶんか たい
学びました。それは、「ほかの国の文化を大
せつ じぶん ぶんか す
切にすることは、自分の文化を捨てることで
はない」ということです。

かんが かた い かた し
いろいろな考 え方や生き方を知ること、
じぶん せかい かのうせい ひろ
自分の世界や可能性はもっと広がります。

おたが りかい
そして、お互いを理解することは、みんなが
へいわ せいかつ たいせつ
平和に生活するために、とても大切だと
おも
思います。

じぶん る 一つ ほこり
だからこそ、だれでも自分のルーツに誇りを
も ぶんか まえむ しゃかい
持ち、ほかの文化にも前向きになれる社会
つく おも
を作りたいと思っています。



いけん おし

あなたの意見を教えてください！

こえ つぎ にゅーすれたー

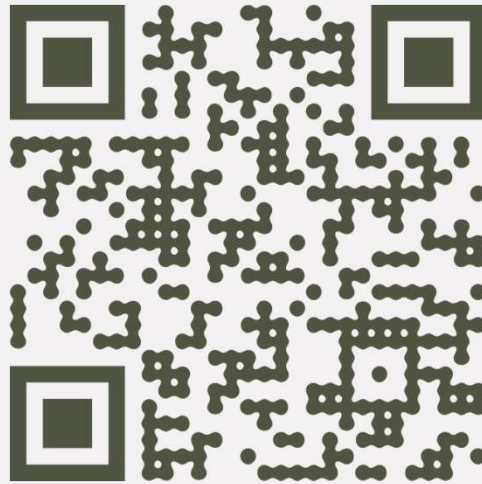
あなたの声が、次のニューズレターで

しょうかい

紹介されるかもしれません。

きがる さんか

お気軽にご参加ください！



M u l t i c u l t u r a l M i e

マ

ル

チ

三

重

